

睦月：第22話「3学期は 0学期です」

「3学期は、0学期です」 私が、始業式に子どもたちに話した言葉です。3学期は、いろいろな学年で、次年度（新しい学年）に向けての準備が行われます。先日5年生の学級で、特別な教科道徳の授業「バトンをつなぐ」を参観しました。このお話は、よりよい学校生活や、集団生活を送るために、4月からはリーダーとしての役割を引き継ぐための心構えについて学ぶものでした。



「バトンとは何？」という教師の投げかけから、「地域の伝統や学校行事を受け継ぐ」「上級生から下級生に受け継ぐ」ことを想像した子どもたちが、資料を読むことにより、「曳船やマリナーズの伝統を受け継ぎたい」「あいさついっぱい学校にしたい」と、自分の問題として考えることができました。授業の最後に、バトンを渡す側の6年生から、「あいさつを下級生に指導するためには、自分がよいあいさつをしてお手本を見せることが大切です」と、経験に基づいたアドバイスをもらいました。



一方、来年度入学する児童を受け入れる準備も進んでいます。左の写真は、“横浜家族の末っ子”だった1年生が4月から入学する子どもたちとの交流した様子を表したものです。上の写真は、4月から毎日背負って登校するランドセルの感触を確かめる体験です。入学してくる子どもたちの期待と不安な気持ちを考えた良いアイデアだと思いました。



また、下の写真は、教室ではない図書室に案内して、読み聞かせを行っているところです。これまでの国語の勉強を生かして、何度も何度も練習して、この日を迎えました。新しく入ってくる子どもたちに喜んでもらえるよう、面白そうな本を選んで読み聞かせを行っていました。本好きな子供になってほしいという願いも込められています。

このように、一人一人の子どもたちが、自分の置かれている状況を自覚して、やるべきことを一つ一つ丁寧にやっていくことで、達成感を味わい、成長していくものだなと感じました。

新しい出会いの春に向けて、自分たちがこの一年間がんばってきたことを振り返りながら、いたるところで0学期の準備が始まっています。